初級編

「加賀ふるさと検定」受験生のためのテキスト

指定文化財編

加賀市内には国・県・市あわせて 160 件の指定文化財と、11 件の登録有形文化財、また重要伝統的建造物群保存地区が２ヶ所あります。（平成 25 年４月現在）その種類も、建造物や工芸品、天然記念物や民俗文化財など多種にわたっています。

これから、国指定（20 件）、県指定（10 件）、市指定（130 件）のそれぞれの文化財と、11 件の登録文化財の概要をみていきましょう。

【国指定文化財】

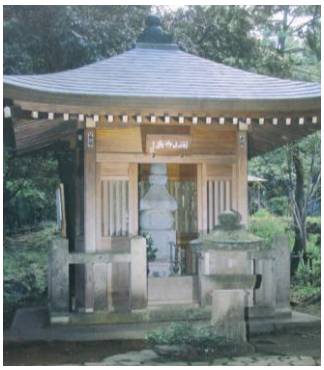
	区分	名称	員数	所有者	所在地
1	天然記念物	篠原の金明竹	１件	加賀市	篠原町
2	天然記念物	栢野の大スギ	１本	菅原神社	山中温泉栢野町
3	史跡	法皇山横穴古墳群	１件	加賀市	勅使町
4	史跡	狐山古墳	１件	加賀市	二子塚町
5	天然記念物	鹿島の森	１件	加賀市	塩屋町
6	天然記念物	八幡神社の大スギ	１本	八幡神社（菅谷町）	山中温泉菅谷町
7	書跡	正親町天皇宸翰御詠草	１幅	菅生石部神社	大聖寺敷地
8	工芸品（漆芸）	蒔絵角赤手筥附文章１巻	１合	菅生石部神社	大聖寺敷地
9	工芸品（陶芸）	陶製金剛童子立像	１躯	医王寺	山中温泉薬師町
10	建造物	江沼神社長流亭	１棟	江沼神社	大聖寺八間道
11	特別天然記念物	オオサンショウウオ	１件	石川県	地域を定めず
12	特別天然記念物	カモシカ	１件	加賀市	地域を定めず
13	建造物	薬王院五輪塔	１基	薬王院	山代温泉
14	天然記念物	ヒシクイ	１件	加賀市	地域を定めず

15	天然記念物	マガン	１件	加賀市	地域を定めず
16	重要有形民俗文化財	白山麓の山村生産具及び民家	2638点と１棟	加賀市教育委員会	大聖寺敷地
17	史跡	九谷磁器窯跡	１件	加賀市	山中温泉九谷町 山代温泉 19 区
18	重要有形民俗文化財	白山麓の積雪期用具	2236点	加賀市教育委員会	大聖寺敷地
19	重要無形文化財工芸技術	木工芸	１件	川北良造	山中温泉上原町
20	建造物	忠谷家住宅	１棟	個人	橋立町

江沼神社長流亭（建造物）

宝永６年（1709）大聖寺藩３代藩主前田利直の休憩所として建てられた数寄屋造りの建物です。当初は「川端御亭」と呼ばれていた柿葺の平屋ですが、欄間や障子、板戸などには斬新なデザインがほどこされ、設計段階で小堀遠州の建築意匠を採り入れた可能性も指摘されています。侘びと雅が融合した大胆な意匠と細部にまで入念に施された装飾により、長流亭は高い評価を得ています。

山代温泉薬王院五輪塔（建造物）



山代温泉薬王院の後方に建つ鎌倉時代の五輪塔です。調査の結果、明覚上人の供養塔と判明しました。明覚は平安時代後期の山代温泉温泉寺の僧で、温泉房と号しました。わが国における悉曇学の第一人者で50音図（あいうえお）配列の創始者の一人とされています。

忠谷家住宅

重要伝統的建造物群保存地区である橋立町における代表的な船主家屋。北前船主として活躍した忠谷久五郎が幕末に建てたもので、県内では最も古い時代の船主邸として価値の高いものとなっています。

蒔絵角赤手筥（工芸品）

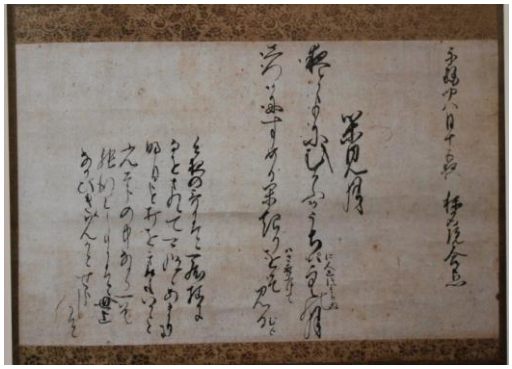
２代将軍徳川秀忠の２女、珠姫は、慶長６年（1601）僅か３歳で加賀藩３代藩主前田利常に輿入れしました。この手筥はその際、江戸から持参した婚礼調度品の一つと伝えられています。いっしょに保管されていた文書により、元和５年（1619）、信仰していた菅生石部神社の祭礼にあたり寄進したものと判明しました。現在、東京国立博物館にて保管されています。

陶製金剛童子立像（工芸品）

当立像は、所蔵する山中温泉の医王寺の寺伝によれば、九谷焼の創始者、後藤才次郎と田村権左右衛門が九谷焼の成功を喜び寄進したものと伝えられています。金剛童子の名称は、明治 33 年（1900）明治天皇の天覧に供したときに命名されたといいます。

正親町天皇宸翰御詠草（書跡）

永禄4 年（1561）の８月 15 日の夜、正親町天皇が、和歌の師、三条西公条の歌会において「閑見月」という題で詠まれた歌の直筆草稿です。「夜とともにむかふかうちは空の月しつかにすめる閑起りをそ見る」と詠われ、戦乱の世にありながらも、静かに秋の月を愛でようとする天皇の心情が表れています。菅生石部神社所蔵。現在、石川県立美術館にて保管中です。



白山麓の山村生産用具及び民家・白山麓の積雪期用具（有形民俗）

木挽や炭焼き、狩猟、焼き畑、養蚕などに関わる民具 2,638 点と小松市の旧新丸村新保で使われていた山村民家 1 棟が「白山麓の山村生産用具」として指定されています。また、雪深い白山麓特有の民具2,236 点が「白山麓の積雪期用具」として指定されています。これらの民具はすべて体系的に整理されており、白山麓に住む人々の生活を知るうえで貴重なものとなっています。この民具や民家は、加賀市分校町に在住していた伊藤常次郎（故人）が、生涯をかけて収集したもので、生前、加賀市に寄付されました。現在、「山村民家」は加賀市中央公園の歴史民俗広場に移築公開されています。また膨大な民具は、同広場の民具収蔵庫に保管されています。

法皇山横穴群（史跡）

勅使町の南にある法皇山には、およそ80基の横穴古墳が確認されていますが、未確認のものも合わせると 200 基以上の横穴があると考えられています。これら横穴の奥には遺体を安置する玄室と呼ぶ部屋があり、また、壺や玉類、金環なども発見されており、古墳時代後期における当地域の有力者の集団墓とみられています。

狐山古墳（史跡）

二子塚町の北側、周囲を田んぼで囲まれたところに小高い墳丘があります。これが狐山古墳です。昭和７年、土砂を採取しようとして後円部から石棺が発見され古墳と分かりました。全長 56 メートルの加賀

市内では最も大きな前方後円墳であり、石棺からは壮年男子の骨とおびただしい数の副葬品が発見されました。畿内との関係もうかがわせ、当地域を治めていた豪族の墓と考えられています。

九谷磁器窯跡（史跡）

山中温泉からさらに大聖寺川に沿って上流域に九谷町があります。現在はダム建設のため、すべての住民は移住し無人となっています。この九谷集落の大聖寺川を挟んで対岸の山の斜面に、江戸時代前期の窯跡２基と江戸後期の窯跡１基が確認されています。江戸前期の窯跡はいずれも連房式の登り窯跡で古九谷を焼いた窯跡と考えられています。また、江戸後期の窯跡は、古九谷を再興しようとした吉田屋伝右衛門が開いた吉田屋窯跡とみられています。一方、九谷集落跡の「九谷Ａ遺跡」からは色絵窯があったと推定される遺構も確認されました。

篠原の金明竹（天然記念物）

明治９年（1876）篠原町のマダケ林の中から、突然変異により発生しました。金明竹とは、竹の枝や幹の色が、金色と緑色の２色が交互に出ているもので、江戸時代より園芸品種として植栽されていますが、野生で繁殖しているのは、この篠原を含めて全国５か所程度しかなく、大変貴重です。

栢野の大スギ（天然記念物）

山中温泉から大聖寺川上流２キロメートルの栢野町の菅原神社境内に、本州最大級の杉の木があります。地上 4.9 メートルのところで二つに大きく分かれており、東幹の幹周りは 5.1 メートル、西幹

の幹周りは 5.75 メートルの巨樹です。一説に樹齢は 2,300 年余りと伝えられていましたが、近年の樹齢測定では 700 年ほどと考えられています。昭和 22 年、昭和天皇が北陸巡幸のとき、お立ち寄りになったため、「天覧の大杉」とも呼ばれています。

鹿島の森（天然記念物）

大聖寺川の河口、塩屋町に位置する陸続きの小島。標高およそ 30 メートル、外周は 600 メートル程度で面積は約３ｈａ。古くは天台宗の霊場が、また江戸時代には萬宝院と称する法華宗の道場があったため、数百年来、斧を入れることがありませんでした。そのため、タブ、スダジイ、ヤブニッケイなどの常緑広葉林が生い茂り、暖地性植物を中心とした原生林のままとなっています。また、アカテガニやツルガマイマイが生息するなど、特異な自然環境が残っています。

八幡神社の大スギ

山中温泉からおよそ 1.5 キロメートル、大聖寺川の上流域にむかったところ、菅谷町の八幡神社境内にある幹周 7.3 メートルの大スギ。樹齢は 2,300 年と伝えられてきましたが定かではありません。地上３メートルのところで３つに幹が分かれているために、別名「三又大スギ」と呼ばれています。

重要無形文化財工芸技術保持者　川北良造

山中温泉上原町の川北良造は、父のもとで木工の挽物技法を習得しました。その後、氷見晃堂に師事。昭和 37 年に日本伝統工芸展での初入選をかわきり

に、以後、さまざまな展覧会で入選し、平成６年に重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝の認定を受けました。轆轤を使った挽物技法を高度な芸術の域まで高め、木の素材が活かされた作品は高い評価を得ています。

　このほか、当市には、地域を特定しない希少な動物として、山中温泉荒谷町の石川県内水面水産センターで飼育されている「オオサンショウウオ」や市内山間部を中心に確認されている「カモシカ」、片野鴨池をはじめとした市内の湖沼、潟などに冬期間にシベリアなどから飛来する「ヒシクイ」と「マガン」が国の天然記念物に指定されています。

【石川県指定文化財】

	区　分	名　称	員　数	所　有　者	所　在　地
1	工芸品（陶芸）	古九谷泊舟図大鉢	1点	個人	山代温泉
2	天然記念物	片野の鴨池	1件	加賀市	片野町
3	民俗文化財	坂網猟法とその用具	1件	大聖寺捕鴨猟区協同組合	片野町
4	工芸品（金工）	鉄打出狛犬大置物	1対	個人	金沢市出羽町
5	無形民俗文化財	御願神事	1件	御願神事保存会	大聖寺敷地
6	彫刻	木造十一面観音立像	1体	薬王院	山代温泉
7	絵画	絹本著色親鸞聖人絵伝	4幅	専稱寺	金沢市出羽町
8	建造物	無限庵御殿	1棟	（財）無限庵	山中温泉下谷町
9	天然記念物	菅原神社の大スギ	3本	菅原神社	山中温泉栢野町
10	工芸技術	山中木地挽物	1件	山中木地挽物技術保存会	山中温泉塚谷町

古九谷泊舟図大皿（工芸品）

口径47 センチ余りの甲形大平鉢の古九谷です。見込みに一艘の舟を中心に網と櫓を描いています。素朴なモチーフですが、大胆な画面構成には独特の力強さがあり、古九谷の名品とされています。個人所蔵。

片野の鴨池（天然記念物）

加賀市の西北、片野海岸近くの丘陵地に囲まれた盆地にある1.5ｈａの池は、全国でも有数の渡り鳥の飛来地として知られています。毎年、10 月頃ともなるとシベリア方面から越冬のためにガンやカモ類が飛来

してきます。最盛期には数千羽から１万羽を越える鳥類の休息の場となっています。平成５年に国際的に重要な湿地としてラムサール条約の登録湿地となりました。

坂網猟法とその用具（民俗文化財）

市内片野町の鴨池周辺で、江戸時代から行われてきた鴨を捕獲するための伝統的な坂網猟とその用具です。坂網猟とは、矢竹でつくったＹ字形の枠に網を張り付けた、長さおよそ 3.5mの「坂網」を飛来する鴨の群れに向かって、空中高く放り投げて捕獲します。鴨がその網にかかると、メタとよぶ留め具がはずれ、網が鴨に絡みつく仕組みとなっています。猟は毎年、11 月 15 日から２月 15 日までの３カ月間で、池で休息していた鴨が夕方、餌を求めて飛び立つときに行われます。坂網を放り投げる場所を「坂場」といい、鴨が最も多く飛来してくるコースの真下の坂場は猟師たちの取り合いとなるので、毎年、くじ引きをして決めます。

鉄打出狛犬大置物（工芸品）

大聖寺藩に仕える刀鍛冶師の家に生まれた山田宗美は、鉄打出しの名人でした。この狛犬大置物は宗美の代表作で、高さ 122 センチの大きなものです。宗美があみだした１枚の鉄板を金槌を使って精巧な造形を打ち出す鎚起法は、他の工芸家が真似のできない高度な技術とされ、近代日本の美術工芸に偉大な足跡を残しました。

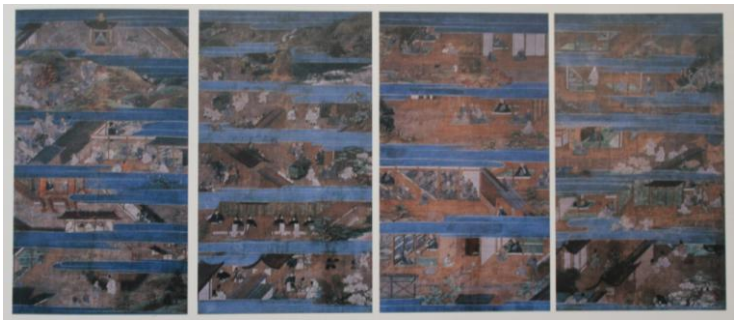
御願神事（無形民俗文化財）

毎年、２月１０日、大聖寺敷地町の菅生石部神社において竹割りの奇祭、御願神事がおこなわれます。神社の由緒によれば、その昔、この地に大蛇がすんでいて、毎年、未婚の娘を差し出さないと田畑を荒らしてしまうので、この大蛇を退治するために神事を行なうようになったといいます。白装束の青年たちが青竹を境内のいたるところに打ちつけて割砕き、大蛇にみたてた大縄を境内にて引き回します。やがて敷地天神橋の上から大聖寺川に投げ込むさまは迫力があります。

十一面観音立像（彫刻）

山代温泉薬王院が所蔵する「木造十一面観音像」は、もと大聖寺慈光院の本尊として祀られていたものですが、戦国時代、大聖寺城主山口玄蕃が前田利長に攻め滅ぼされた際に、池の中に投げ入れられ難を逃れたとものと伝えられています。明治維新後、同じ白山五院のひとつであった薬王院に移されました。平安末期の白山信仰の本地仏として貴重です。

絹本著色親鸞聖人絵伝（絵画）



浄土真宗の開祖、親鸞聖人の出家から亡くなるまでの生涯を描いた絵巻物を、後世、布教活動のために４幅の掛け軸として仕立てられたもので

す。裏書から、宝徳元年（1449）に大聖寺鉄砲町の専称寺が本願寺から下付されたものと判明しました。500 年余りが経過しており、歴史資料として、また美術史上においても貴重です。

無限庵（建造物）

山中温泉下谷町に建つ無限庵は、尾小屋鉱山などを経営していた横山章（横山家 13 代隆平の分家）が、大正元年に金沢で建てた書院で、当時、金沢の木造建築技術の粋を集めた建物といわれていました。鉱山経営が悪化したことで、大正 10 年に山中温泉の新家熊吉に売却し現在地に移築されました。格式と豪華さを兼ね備えた、近代の書院造として貴重な建物です。

菅原神社の大スギ（天然記念物）

山中温泉栢野町の菅原神社の参道脇には、４本の杉が立っており、そのうちの最もおおきな杉は「天覧の大杉」として国の天然記念物に指定されていますが、残りの３本もこれに次ぐ大きなもので、石川県指定の天然記念物となっています。3 本の杉はいずれも樹高が 35 から 40mの高さであり、県内でも希少な巨樹となっています。（写真はそのうちの１本）

【加賀市指定文化財】

平成２５年４月現在で、加賀市指定文化財は全部で１３０件となっています。その主なる文化財を紹介します。（※130 件の一覧は割愛いたします。ご覧になりたい方は加賀市のホームページから閲覧できます。）

■「工芸品」

江沼神社所蔵の「能面・能装束６点」、山中漆器の蒔絵作家、大下雪香作の「枯木寒鴉蒔絵丸硯箱」、千筋挽の名工筑城良太郎作の「富貴漆毛筋宝珠形香合」、大聖寺藩最後の藩主第 14 代前田利鬯の「卯花絲威二枚胴童具足」や旧北前船主酒谷長兵衛家で使われていた「三国仏壇（冬仏壇・夏仏壇）一式」大聖寺鍛冶町、本善寺所蔵の「古九谷色絵孔雀図平鉢」などの工芸品が加賀市の指定文化財となっています。

富貴漆毛筋宝珠形香合

千筋挽きの名工築城良太郎の作。高さ７㎝、幅 8.8 ㎝の小品ですが、上部にいくほど狭い間隔で毛筋が挽かれており、挽物技術の最高傑作といえます。

古九谷色絵孔雀図平鉢

口径32.7 ㎝のやや深めの大皿。古九谷窯の創設に指導的な役割を果たしたとされる後藤才次郎ゆかりの寺である大聖寺の本善寺に伝えられてきたことから、九谷焼初期の伝世品と推測されています。

三国仏壇（冬仏壇・夏仏壇）

橋立町の旧北前船主酒谷長兵衛家で使われていた大小２基の仏壇。大きい方は「冬仏壇」とよばれ、主人が帰省しているときや法事などの際に使用しました。また、小さい方は「夏仏壇」と呼び、普段は主人が北前船経営のため不在であり、そうしたときは、家族はこの小さい方の仏壇をおもに使用しました。いずれも北前船の里資料館内で展示しています。

卯花絲威二枚胴童具足

大聖寺藩最後の藩主、第 14 代前田利鬯が元服の際に誂えられたものと伝えられています。上級武士の家では、男子の場合、武運長久を願って、幼少期に童具足を揃え、鎧着初めの儀式を行ないました。この具足は、工芸技術の高さから金沢の「加賀藩御細工所」でつくられたものと考えられています。

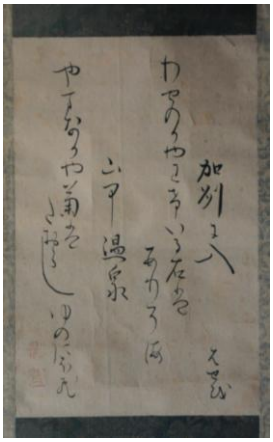
■「書跡・歴史資料・絵画」

「菅生石部神社所蔵書跡・絵画等」（46 件）や市が所有する「大田錦城先生遺稿」、「吉田屋文書」（1,181　点）、芭蕉の掛軸真蹟（「やまなかや　菊はたおらじ　ゆのにほい」）、「大聖寺町絵図面」（文化～弘化年間作成）、大聖寺藩十村役　鹿野小四郎が著した「農事遺書」（個人所蔵）、「瀬越町白山神社所蔵船絵馬」（53 面）などがあります。

このほか絵画として、「山中温泉縁起絵巻」、「旧極楽寺所蔵十一面観音像・阿弥陀如来来迎図」が、また、彫刻としては「全昌寺五百羅漢像」があります。

大田錦城先生遺稿

江戸時代後期に活躍した儒学者大田錦城の著作および蔵書、全 143 冊。この中には、論語や儒教について記した『九経談』（全 10 巻）や東アジア各国の国名や地名などをまとめた『海外諸国名録』（全１巻）などが含まれています。



芭蕉「やまなかや」の掛軸真蹟

元禄2 年（1689）、松尾芭蕉が奥の細道の行脚の際、山中温泉の旅館「泉屋」に逗留しました。このとき泉屋の主人、久米之助（号「桃妖」）に与えた書と伝えられています。「わせの香や　分入る右は　有磯海」と「やまなかや　菊はたおらじ　ゆのにほい」の２句が記されています。

農事遺書

大聖寺藩の十村役を務めた初代鹿野小四郎が、農事全般の体験や知識を自身の子孫に伝えるために遺書の形で書き綴ったものです。全５巻からなり、近世農業史を研究する上で極めて価値の高い資料となっています。

五百羅漢像

大聖寺神明町の曹洞宗全昌寺に伝えられている木製の五百羅漢像。釈迦三尊像３体、十大弟子尊像10 体、四天王尊像４体をふくめて全 517 体が、彩色豊かに保存状態も良

好な形で残されています。京都の仏工山本茂祐が慶應3 年から明治初年にかけて製作したものといわれています。

■「史跡名勝」

「片山津玉造遺跡」や「大聖寺城址」、「江沼神社庭園」深田町の「鏡の池」、八日市町の「都戻りの地蔵」、分校町の「新家理與門の碑」などが加賀市の史跡名勝として指定されています。

玉造遺跡

片山津町の西側の台地で発見された４世紀後半から５世紀前半にかけての古墳時代の遺跡。ここでは首飾りなどの装飾品に使う管玉や勾玉などの玉類を製造していた住居と工房を兼ねた竪穴式住居跡３３基が発見され、玉造職人集団が住んでいたと推定されています。

大聖寺城址

大聖寺の西端の小高い山「錦城山」にある城跡。江戸時代には「古城山」と呼ばれていました。歴史に登場するのは、南北朝時代の『太平記』が初見で、鎌倉時代頃から、地元の豪族などが城を築き、軍事の拠点として使っていたものと考えられます。戦国時代には、羽柴秀吉の陪臣にあたる溝口秀勝や山口玄蕃などの武将も、ここに城を築きました。慶長５年（1600)、石田三成と徳川家康との間で関ケ原の戦いが起こると、豊臣家恩顧の武将である山口玄蕃と、徳川方についた前田利長との間でも、この大聖寺城を舞台に激しい合戦となりました。結局、利長率いる２万５千人の大軍と 1,200 人余りの玄蕃軍では軍事力の差が大きく、山口玄蕃は父子ともども僅か１日で滅びました。

江沼神社庭園

宝永6年（1709）大聖寺藩３代藩主前田利直が、藩邸屋敷を再建する際、造園を命じたと伝えられていますが、初代利治の時代の庭園を改造したものであろうと考えられています。石川県内では兼六園とともに池泉回遊式大名庭園として大変貴重なものとなっています。

鏡の池

市内深田町の東側にある約 12 ㎡の小さな池。この池の底には、平安時代後期から鎌倉時代のものとされる和鏡が安置されています。この鏡は篠原の戦いの際、斉藤実盛が髪を黒く染める際に使った鏡だとする伝承が古くより伝えられています。

■「天然記念物」

小塩辻町の「十村屋敷跡スダジイ巨木群」や大聖寺神明町の「宗寿寺のスダジイ」、分校町の「分校の大山桜」などをはじめ、現在９件の天然記念物が加賀市の文化財に指定されています。

小塩辻十村屋敷巨木群

宗寿寺スダジイ

分校大山桜

■「無形文化財」

シャシャムシャ踊り、山中節、ごりよび唄、お松囃子、黒崎土ねり節、敷地天神蝶の舞などがあります。

お松囃子

正月２日または３日の夜に開かれる謡初めのことを「松囃子」といいます。大聖寺藩では 14 代藩主前田利鬯が特に宝生流の能楽普及に力を注いだため、毎年正月２日に、利鬯公の遺影の前で錦城能楽会の人たちにより「高砂」、「東北」、「猩々」の３番が舞われています。

シャシャムシャ踊り

加賀市塩屋町を中心に、周辺の吉崎町、永井町に伝わる盆踊りで、別名「蓮如踊り」とも言われています。「シャシャムシャ」とは、昔、蓮如が始めて吉崎を訪れた際、道もない笹山を、両手でかき分けて登ったと伝えられ、すなわち「シャシャ」（笹）が「ムシャムシャに」（勢い良く）生い茂っていた様子から、この名前がついたと言われています。笛や太鼓の囃子がまったくなく、蓮如が笹をかきわけて進む様子だけを再現した素朴で哀愁漂う踊りとなっています。

黒崎土ねり節

黒崎町は海岸線に沿った丘陵地に位置しているため、河川や用水路に恵まれておらず、江戸時代より灌漑用の溜池をつくって新田開発をおこなってきました。この溜池の堤をつくる際に唄われた作業歌が「土ねり節」です。

■「建造物」

菅生石部神社神門や旧大聖寺藩関所門、旧九谷寿楽窯旧母屋兼工房、旧酒谷長兵衛家住宅などがあります。

菅生石部神社神門

大聖寺敷地町の菅生石部神社の境内入り口に建つ楼門。棟札や設計図などから、文政８年（1825）の作で、名工山上善衛門嘉広の系統にあたる善衛門吉順とされています。

旧大聖寺藩関所門

廃藩置県の際、明治 2 年に大聖寺関所が廃止された際、家老生駒一彦の口利きで宗寿寺の境内に移されたと伝えられています。現在、瓦葺の屋根がついていますが、もともとは屋根のない柵門であったと考えられています。

旧酒谷長兵衛家住宅（橋立町）

橋立町の酒谷長兵衛は、江戸時代から活躍した北前船主。現在、橋立町に残る船主邸のなかでは最も大きいものです。明治５年の大火後から工事が始まり、明治９年に完成したといわれています。北前船主の財力を示す家として貴重で、現在、北前船の里資料館として公開しています。

【国の登録有形文化財】

保存・活用が特に必要とされる文化財建造物について、後世に継承するために文部科学大臣が文化財登録原簿に登録する制度です。従来からの指定制度を補完し、その基準を緩やかにしたもので、原則として建設後 50 年を経過し、国土の歴史的景観に寄与していることなどが条件となっています。現在、加賀市内の登録有形文化財として、１１件が認定されています。

	名　　称	員数	所有者	所在地
1	旧月田家住宅	１棟	個人	大聖寺神明町
2	北前船主屋敷蔵六園	11 棟	個人	橋立町
3	白銀屋旅館	３棟	（有）白銀屋	山代温泉
4	山岡商山堂（山岡ビル）	１棟	個人	山中温泉湯の出町
5	時習庵	２棟	個人	大聖寺神明町
6	北大路魯山人寓居	２棟	加賀市	山代温泉
7	旧中木家住宅	３棟	加賀市	大聖寺魚町
8	旧山長織物会社	３棟	加賀市	大聖寺番場町
9	五徳庵	４棟	歴町センター大聖寺	大聖寺錦町
10	橋本酒造	12 棟	橋本酒造株式会社	動橋町
11	江沼神社竹涇館・梅花庵	２棟	江沼神社	大聖寺八間道

旧月田家住宅（大聖寺神明町）

大聖寺藩の下級武士であった月田家の住宅。建物の玄関や押入れなどの一部に改造がみられますが、基本的な構造は残されており、幕末における下級武士の住宅として貴重です。

白銀屋（山代温泉）

建物は江戸後期の文政年間に建てられたものと伝えられています。外壁は朱色に塗られ、正面にべんがら格子がはめ込まれています。また、屋根の両袖には卯建がついており、江戸時代の格調の高い湯宿の姿をよく残しています。

橋本酒造（動橋町）

橋本家は江戸時代後期から続く造り酒屋。建物は文化年間に建てられた主屋と酒蔵を中心に明治以降の土蔵や石蔵などが並んでいます。水蒸気を放散させるための高い吹き抜けや明かり採りが当時の酒造りのための特徴を示しており貴重な建物となっています。

旧中木家住宅（大聖寺魚町）

もと大聖寺の中木伊三郎の住宅。母屋は大正２年の建築となります。茶の間上部は天窓がついた吹き抜けとなっており、１階の板葺庇のサガリや２階の袖卯建などに特徴がみられます。

このほか、時習庵（大聖寺神明町）、五徳庵（大聖寺錦町）、旧山長織物会社（大聖寺番馬町）、山岡商山堂（山中温泉湯の出町）、北大路魯山人寓居（山代温泉）、北前船主屋敷蔵六園（橋立町）江沼神社竹涇館・梅花庵（大聖寺八間道）が登録有形文化財となっています。

【重要伝統的建造物群保存地区】

伝統的建造物群保存地区とは、城下町や宿場町、農村、漁村などの伝統的建造物群およびこれと一体をなして歴史的風致を形成している環境を保存するために市町村が定める地区を指すもので、そのなかでもとりわけ価値が高いものを文部大臣は「重要伝統的建造物群保存地区」として選定するものです。

平成 25 年（2013）８月現在、全国で 104 地区が選定されています。石川県内では金沢市の東山地区、主計町、卯辰山麓、寺町台の４カ所、輪島市の黒島地区の１ヶ所、白山市の白峰地区の１ヶ所、それに加賀市の橋立地区と東谷地区の２か所の合計８カ所が選定されています。

加賀橋立伝統的建造物群保存地区

加賀市橋立町は江戸後期から明治中期にかけて繁栄（はんえい）した北前船の船主や船頭が居住した集落で、寛政（かんせい）８年（1796）には船主 34 名と船頭８名が確認（かくにん）されています。明治５年に大火（たいか）に見舞（みま）われましたが、明治中頃には、より規模を拡大した船主集落として発展しました。現在も近世の屋敷割（やしきわ）りを残すとともに、豪壮（ごうそう）な家屋や特色ある石垣（いしがき）等を残しており、「北前船主のふる里」として全国的にも知られています。

加賀東谷地区伝統的建造物群保存地区

東谷地区は、荒谷（あらたに）・今立（いまだて）・大土（おおづち）・杉水（すぎのみず）の４つの集落で構成（こうせい）されています。藩政期より製炭業（せいたんぎょう）で栄え、明治前期から昭和 30 年代までに建てられた赤瓦（あかかわら）に煙出（けむだ）しを備えた主屋が周辺の田畑や豊かな自然環境（しぜんかんきょう）とともに残り、山林に包（つつ）まれた静かで美しい山村の風景を保（たも）っています。